

4月18日19日20日実施議員視察研修不参加理由

高橋 美博

反対討論でも述べさせていただきましたが改めて理由を明確にしておきます。

議員の視察の経費は市費であり、視察が必要とされる理由を明確に示さなければ市民の理解を得ることは到底できません。また、平成28年度は議員全員参加の視察を3回も計画していますが、こんな例は過去にはありません。予算計上にあたっては事前に議員全員にはかり理解を得るべきと考えます。議員が当局の予算執行について意見を述べるには、議会もそれにふさわしい予算執行を図らなくてはスジが通りません。議会にあっても、従来実施のものについても見直しをするなど節減努力が求められます。

特に、多くの市民が原発再稼働に反対する中で、原発稼働を前提とした施設の視察に多額の市費をかけることは市民の理解を得られません。

東京電力福島第一原発が世界最悪レベルの原発事故を起こしてから5年が経ちますが、事故の原因究明は全く進んでおりません。たまり続ける汚染水や手を付ける目途さえ経っていない溶解燃料などいまだ終息には程遠い現状にあります。避難生活を強いられている住民は現在でも10万人以上、復興の目途どころか、帰還の目途さえ立っておりません。原発事故の代償はあまりにも大きすぎます。

原発はひとたび事故を起こせば取りかえしのつかない被害を及ぼします。これは福島の現状を見れば明らかであります。私の大学時代の友人が被災し、東電を相手に闘っております。また袋井市内で避難生活を送り帰還を果たせないまま亡くなった南相馬市の方との交流により事故による影響と避難生活の大変さをつぶさに感じてきました。私はこれまで2度ほど福島の被災現場を訪ね、住民から原発事故で失ったものの大きさと事故による苦難を伺ってまいりました。こうした中で原発の廃炉を求める闘いは人生をかける重要なテーマとして取り組まなくてはと決意を新たに、浜岡原発永久停止を求める訴訟団の原告団の一人に名を連ねました。

六ヶ所村の核燃サイクル事業施設は原爆の材料ともなりうるプルトニウムとウランを取り出してもう一度燃料として利用する核ごみ再処理施設で、当初見込まれた建設費用は7600億円でしたが、これまでに3倍の建設費用2兆2000億円をつぎ込みながら完成は22回も先送りとなり、完成の目途さえ立たっておりません。またむつ市の使用済燃料中間貯蔵施設も、全国の原発から運び込まれた使用済み燃料は貯蔵プールにほぼ満杯であり新たな受け入れは困難となっています。

再処理工場は、「核燃料サイクル」の柱に位置付けられておりますが未確立の技術でトラブルが相次ぎ、原発以上に危険だと指摘されています。原発で使用済みの核燃料からプルトニウムを抽出し、ウランと混ぜ合わせてつくったMOX燃料を、特殊な原子炉で繰り返し利用するのが核燃料サイクルです。しかし、高速増殖原型路「もんじゅ」の運転の見通しも全く立たず、核燃サイクル施設は完全に破たんしています。

運営している日本原燃は電気事業者の出資による株式会社ですが、電力自由化により倒産の恐れもあり、国は認可法人化に移行し、国の支援も計画しています。電力会社の負担も電気料金に上乗せした国民の負担であり、無駄な延命策は国民の負担を増すだけです。こうした原発延命のための施設見学は、私には絶対に受け入れられません。

こんな施設を見ても何ら参考とはなりません。議員としてすべきは核燃サイクル施設ではなく、福島原発事故による被害実態を知るための視察こそ実施すべきと考えます。

宮城県岩沼市への表敬訪問も、議員全体で行くことが必要なのか疑問であります。これまでに袋井市議会では、議員全体、総務委員会、特別委員会と3度も視察を行っており、会派の視察も行われてきました。今回友好姉妹都市を前にしての訪問とのことでしたが、議員に限らず広く市民の交流こそ予算を使うべきと考えます。

以上、不参加の理由を述べました。議員各位の再考を求めます。